

2012

第22回守谷市青少年海外派遣事業報告書

平成24年7月27日(金)～8月7日(火)

目 次

● 守谷市長あいさつ	1
● 守谷市国際交流協会長あいさつ	2
● 平成24年度守谷市青少年海外派遣団員名簿	3
● 事前・事後研修日程	4
● 海外派遣日程	5
● グリーリー市日程詳細	6
● ホストファミリー	7
● アメリカ・グリーリー市周辺地図	8
● 思い出の日記	9
● 派遣団員報告書	17
● フェアウェルパーティープログラム	35
● 編集後記	38



言葉の壁を越えて

守谷市長 会田 真一

第22回守谷市青少年海外派遣も、多くの皆様のご協力により無事に終了いたしました。派遣団員を快く受け入れてくださったアメリカ合衆国コロラド州グリーリー市及びホストファミリーの方々には心から感謝申し上げます。

前回のグリーリー市への派遣が中止となってしまったため、今回の派遣は実に4年ぶりでした。また、来年は姉妹都市締結20周年であり、このような時期に海外派遣を実施したことは、守谷とグリーリーの絆を改めて確認することになったと思います。

団員の皆さんは、グリーリー市民の心からの歓迎に触れ、温かく迎え入れてくれたホストファミリーと有意義な日々を過ごし、意思を伝え合うことの喜びと大切さ、そして言語を越えた人の繋がりを改めて感じたことでしょう。また、アメリカの数々の観光地を見学する中で“世界を知る”という貴重な経験を積むことができたと思います。

皆さんにはこの12日間を通じて得た貴重な体験を糧として、自らの夢の実現に向かって歩いていてもらいたいと思います。そして、今後もホストファミリーとの交流を大切にいただき、異文化への理解と友情をより一層深められることを期待しております。

最後になりましたが、本事業を実施するにあたりご協力をいただきました守谷市国際交流協会をはじめとする関係者の皆様に心から感謝申し上げ、ご挨拶といたします。



夢に向かって

守谷市国際交流協会会長 小川 一成

第22回守谷市青少年海外派遣事業が、無事成功のうちに終わられたことをお喜び申し上げます。

平成2年にこの事業が始まって以来、守谷市国際交流協会としても全面的に支援、協力してまいりました。それは、当協会が目標とする市民の交流を通しての国際交流という観点にこの事業が合致しているためであります。

守谷市の代表として、何事も素直に順応できる10代に、アメリカ合衆国の異文化や大自然、それ以上に異国の方々との心と心の触れ合いを感じてきたことは、このうえない財産となったのではないのでしょうか。アメリカという国に好印象を抱くとともに、お世話になったファミリーに対し、感謝の気持ちで一杯になったことでしょう。人と触れ合うことの大切さやお世話になった方への感謝の気持ちを忘れずに、勉強や交流を続け、今後の国際交流を担っていただければと思います。

また、私は研修や壮行会において「将来の夢」について話をし、皆さんの夢を伺いました。夢は言葉にすれば必ず実現します。皆さんがそれぞれの夢を実現させることを願ってやみません。そして、この青少年海外派遣が将来の夢の実現への助力となれば、国際交流協会といたしましても、大変喜ばしいことであります。

最後に、来年は守谷市とグリーリー市が姉妹都市を締結して20周年という記念すべき年です。これからの守谷市とグリーリー市の交流が益々発展することを祈念申し上げ、ご挨拶いたします。

平成24年青少年海外派遣団員名簿

●団員

氏 名	学 校 名	学 年
すやま かい 須山 魁	土浦日本大学中等教育学校	1 年
まるた つかさ 丸田 典	守谷市立守谷中学校	1 年
ひらの ひろし 平野 皓士	江戸川学園取手高等学校	1 年
みやま たいへい 三山 泰平	早稲田大学高等学院	2 年
すだ ゆいか 須田 唯華	江戸川学園取手中学校	1 年
よしい まあや 吉井 万絢	守谷市立守谷中学校	2 年
みずもと ゆか 水元 優花	常総学院中学校	2 年
やかべ みく 屋嘉部 みく	守谷市立御所ヶ丘中学校	2 年
たかね まりか 高根 万理香	守谷市立御所ヶ丘中学校	3 年
ながとも めぐみ 長友 芽美	茨城県立水海道第一高等学校	1 年
こんどう まゆ 近藤 真由	茨城県立竹園高等学校	2 年
よこせ さわこ 横瀬 彩和子	東洋大学付属牛久高等学校	2 年

●引率者

氏 名	所 属
あまの しんいち 天野 紳一	守谷市国際交流協会
てらだ しげき 寺田 茂紀	守谷市役所生活経済部市民協働推進課

事前・事後研修日程

● 事前研修

月 日	時 間	内 容	場 所
6月9日 (土)	13:30~13:40	事務連絡	市役所 大会議室
	13:40~15:00	日本や守谷を紹介しよう！	
	15:00~16:00	引率者との面接・DVD鑑賞（和室）	↓
	16:00~16:30	学びの里へ移動（公用車）	
	16:30~19:30	バーベキュー	もりや 学びの里
	19:30~21:00	フェアウェルパーティーについて	
	21:00~22:00	シャワー	
6月10日 (日)	7:30~ 8:30	朝食	もりや 学びの里
	8:30~ 9:00	市役所へ移動（公用車）	
	9:00~ 9:50	アメリカを知ろう！（生活習慣・会話など）	↓
	9:50~10:00	休憩	
	10:00~12:00	守谷市国際交流協会会員（派遣経験者）との懇談	市役所 大会議室
	12:00~13:00	昼食	
	13:00~15:00	フェアウェルパーティーについて	
6月24日 (日)	13:30~13:40	事務連絡	国際交流 研修センター
	13:40~14:50	アメリカを知ろう！（生活習慣・会話など）	
	14:50~15:00	休憩	
	15:00~17:00	フェアウェルパーティーについて	
7月8日 (日)	13:30~13:40	事務連絡	国際交流 研修センター
	13:40~14:50	アメリカを知ろう！（食習慣）	
	14:50~15:00	休憩	
	15:00~17:00	フェアウェルパーティーについて	
7月22日 (日)	9:30~ 9:40	事務連絡	国際交流 研修センター
	9:40~12:00	アメリカを知ろう！（まとめ）	
	12:00~13:00	昼食	
	13:00~16:50	フェアウェルパーティーについて	
	16:50~17:00	事務連絡	

● 事後研修

月 日	時 間	内 容	場 所
8月18日 (土)	9:30~10:20	反省会	国際交流 研修センター
	10:20~10:30	休憩	
	10:30~11:00	報告書資料確認	
	11:00~11:30	解散式	

海外派遣日程

日	月日（曜）	発着地/滞在地名	発着 現地時間	交通機関	行 程
1	7月27日 （金）	守谷市役所	13:00		壮行会
		守谷市役所 発	13:30	専用バス	専用バスにて成田空港へ出発
		成田空港 発	17:25	NH008	空路，サンフランシスコへ
		…日付変更線通過…			
		サンフランシスコ 着	10:45	専用バス	到着後，サンフランシスコ市内観光 観光後，ホテルへ 《サンフランシスコ 泊》
2	7月28日 （土）	サンフランシスコ	終日	専用バス	サンフランシスコ市内観光 観光後，ホテルへ 《サンフランシスコ 泊》
3	7月29日 （日）	サンフランシスコ	11:10	専用バス	専用バスにて空港へ
		サンフランシスコ 発		UA347	空路，ラスベガスへ
		ラスベガス 発		専用バス	陸路にてグランドキャニオンへ
		グランドキャニオン 着			到着後，ホテルへ 《グランドキャニオン 泊》
4	7月30日 （月）	グランドキャニオン 着	早 朝	専用バス	グランドキャニオン観光
		グランドキャニオン 発		航空機	陸路にてラスベガスへ
		ラスベガス 発	15:22	UA1679	空路にてデンバーへ
		デンバー 着	18:12	専用バス	到着後，ホテルへ 《デンバー 泊》
5	7月31日 （火）	デンバー	午前 午後	専用バス	デンバー市内観光
		グリーリー			専用バスにてグリーリーへ 到着後，ホストファミリーと合流 《ホームステイ》
6	8月1日 （水）				ホームステイにて交換学習 《ホームステイ》
7					
8					
9					
10	8月5日 （日）	グリーリー 滞在	終日		☆8月5日の夜はフェアウェルパーティー
11	8月6日 （月）	グリーリー 発	早 朝	専用バス	専用バスにてデンバーへ
		デンバー 発	8:25	航空機	空路，帰国の途へ
		サンフランシスコ 着	10:18	UA577	
		サンフランシスコ 発	12:25	NH007	《機内 泊》
…日付変更線通過…					
12	8月7日 （火）	成田空港 着	15:25	専用バス	成田到着後，専用バスで市役所へ
		守谷市役所 着	18:45		市役所到着後，報告会

ホームステイスケジュール

月日（曜）	時 間	行 程
7月31日 （火）	15：30～16：00	Union Colony Civic Center（UCCC）にて，歓迎式及び対面式 対面式後，各ホストファミリーの家庭へ
8月1日 （水）	8：00～ 15：00～	UCCCに集合後，Estes park へ 午前 乗馬による散策後，ランチ 午後 エステス・パークの中心街で自由行動 UCCCに集合後，各家庭へ
8月2日 （木）	11：30～ 16：00～	Fun plex で集合 グリーリー青少年委員との交流 ・バーベキュー ・バレーボール，バスケットボール，プール，パターゴルフなど グリーリー青少年委員と共に，コロラド・ロッキーズの野球試合観戦 野球観戦終了後，各家庭へ
8月3日 （金）	13：30～15：30	UCCCにて，フェアウェル・パーティのリハーサル 終了後，各家庭へ
8月4日 （土）	終日	一日ホストファミリーと過ごす
8月5日 （日）	17：00～19：00	日中はホストファミリーと過ごす UCCCにて，ディナーとフェアウェル・パーティ 終了後，各家庭へ
8月6日 （月）	4：15～	UCCCにて，ホストファミリーとお別れ

ホストファミリー

団員氏名	ホストファミリー
須山 魁 横瀬 彩和子	Welp ウェルプ 家族
丸田 典 平野 皓士	Segal シーガル 家族
三山 泰平	Sparks スパークス 家族
須田 唯華 屋嘉部 みく	Haring ハイリン 家族
吉井 万絢	Wright ライト 家族
水元 優花	Giggy ジギー 家族
高根 万理香	Ader エイダー 家族
長友 芽美 近藤 真由	Herrera ヘレラ 家族
天野 紳一	Gudmundson グドマンドソン 家族
寺田 茂紀	Coggins コギンズ 家族

アメリカ・グリーリー周辺地図



アメリカ合衆国
United States of America

面積 9,629,021 平方 km
人口 約 3 億 1 3 1 0 万人
(「世界の統計 2012」総務省統計局)
首都 ワシントンDC



コロラド州グリーリー市
City of Greeley

面積 約 7 8 平方 km
人口 9 2, 8 8 9 人 (2010 年現在)





思い出の日記



6月9日、10日 宿泊研修

面接，抽選会以来でみんなときどきだった。早くみんなと仲良くなりたいと思ったが，緊張して，はじめは会話も少なかった。屋内バーベキューをしたり，みんなで寝るところを作ったり，話したりしているうちに次第に打ち解けてきた。2日目の話し合いはスムーズに進み，とても充実した研修になった。このメンバーでアメリカに行くと思うと，とてもわくわくした。この2日間で，距離がぐんと縮まった。これからの研修と派遣がとても楽しみだ。

（文責：吉井万純）



事前研修

6月24日

ダンスの練習が始まりました。初めての練習でみんな集中していました。完成するのが楽しみです。

7月8日

フェアウェルパーティで着る，Tシャツの色がピンクに決まりました。ダンスはだいたい仕上がってきているので，国歌を大きな声で歌えるように練習していきたいです。

7月22日

今日は最後の事前研修でした。ダンスも仕上がり，フェアウェルパーティを始めて通して練習しました。流れ的にスムーズに進めることができたのではないかと思います。

（文責：須田唯華）



7月27日 壮行会～成田空港

初めてのアメリカに行くからか、あまり眠ることができませんでした。出発のとき「しっかりやってきなさい」とでも言うかのように見送られました。成田空港に着き、飛行機を見て感激している人もいれば、不安そうな顔をしている人もいました。そして離陸し、いったん日本とおさらば。機内では、緊張しているのか、一睡もしていない人もいれば、退屈でゲームをしている人もいました。
(文責：須山魁)



7月27日、28日(現地時間) サンフランシスコ



着陸前に旋回して見えたアメリカの町は、大きいと思いました。着陸後、入国審査で初めて英語を使いました。空港を出て最初に思ったことは、乾燥していて涼しいということです。サンフランシスコではまず「フィッシャーマンズワーフ」で自由行動。「これはアメリカか？」と一瞬考えてしまうような店もありました。

ハーバーでもものすごい数のアザラシが休んでいるのを発見しました。

次に向かったのは、ゴールデンゲートブリッジです。ここに着いたときに思ったことは、海からの冷たい風がふいて寒いということでした。まわりのアメリカ人が半袖でいてびっくりしました。

その後、ホテルで休憩をして夕飯を食べ、アメリカでの1日目が終わりました。

(文責：須山魁)



<2日目>

アメリカでの初めての朝食はバイキングでした。私はそこでベーコンを食べたのですが、アメリカのベーコンはしっかり焼かれていて、カリカリでとてもおいしいものでした。

そしてケーブルカーに乗りました。せっかくなので、外で立って乗りました。ここに立つと本当にアメリカに来たのだというような気がして、うれしくなりました。

そしてコイトタワーへ行きました。ここには大きな像がありました。

その次に、フィッシャーマンズワーフへ行き、お土産を買いました。昼食はフランスパンに入っているクラムチャウダーを食べました。器がパンなので器ごと食べられました。とてもおいしかったです。

夜は中華料理を食べました。ジャスミンティーがおいしかったです。

(文責：水元優花)



7月29日 サンフランシスコ～グランドキャニオン

いよいよサンフランシスコともお別れ。

ありがとう、サンフランシスコ。また来るね。サンフランシスコからラスベガスへ。

ラスベガスに着いて一番初めに思ったことは、「光ってる!!」とにかく何もかもがきらきらしている。パチンコ屋さんが100件並んでいるよりもすごい感じ。

そして、カジノの数もすごかった。空港のところどころにカジノの機械がたくさんあり大人の街なんだなあ、と思った。

そんなラスベガスともすぐにお別れ。大人になったらまた来てみたいなあ、なんて思いながら長～い長いバスの時間。バスの中ではお友達とおしゃべりしたり少し眠ったりゆっくり楽しく過ごした。

そしていよいよグランドキャニオンへ。予定よりも少し早く着いたということで、明日の予告編…少しだけ渓谷を見に行った。グランドキャニオンは私の想像を遥かに超え、まるで絵に描いたような風景がどこまでもどこまでも続いていた。

本当に感動したのと同時に明日またゆっくり見ることができると思うと嬉しくとても楽しみになった。(文責：屋嘉部みく)



7月30日 グランドキャニオン～ラスベガス～デンバー

朝4時30分。グランドキャニオンから朝日を見るために起きた。行く時は少し雨が降っていて朝日が見ることができるか心配だったが、到着すると雨もやみ、雲と雲の間から太陽の光が差し込み、めったに見ることができないほど素晴らしい景色を見ることができた。

ラスベガスへ行く途中、Rute66に寄った。そこはまるで、昔のアメリカのようだった。

ラスベガスの空港でオレンジと紫の髭のおじさんがいたので、一緒に写真を撮った。とても面白い人で、日本が好きだと言っていた。

明日はどんな人に会えるかな。(文責：丸田典)



7月31日 デンバー～グリーリー

今日、最初に向かったのはレッドロックスです。とっても暑くて、大きな岩が沢山ある場所でした。有名なアーティストの写真、サイン、楽器などがあり、寺田さんがはしゃいでいました(笑)次に向かったのは、州会議事堂です。昼食をすませ中に入ると、そこには歴代の大統領の絵が飾ってありました。

いよいよ、ホストファミリーとの対面式！緊張の中、一家族ずつ写真を撮り、ついに自分の順番。話してみると、優しい方でした。(文責：横瀬彩和子)

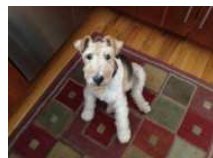


7月31日～8月5日 ホームステイ



デンバーの州議会議事堂や自然博物館を見学した後、グリーリー市へ！

UCCCに着いて緊張しながらファミリーを待っている時にもらったクッキーと冷たいソーダがおしかった～！そしていよいよホストファミリーと対面。シスターのヘイリーが笑顔で手をつないでくれたことが嬉しかった！夕飯のときに行ったピザショップのピザの大きさには驚いたなあ。2日目は楽しみにしていた乗馬！アメリカの雄大な山や川などの自然に触れたり、野生動物を間近で観察できたりと日本では出来ない経験をすることができた。3日目はグリーリーの青少年委員たちと交流。野外でのBBQはアメリカらしいものがたくさん並んでいてたくさん食べていたらお腹はパンパン（笑）たくさん食べた後はたくさん運動！その後はバスケットボール、バレー、パターゴルフでたくさん汗をかいてそのままプール！ウォータースライダー楽しかった～！夜のコロラドロックズの野球観戦はルールがよくわからない私でも興奮した！最終日のフェアウェルパーティではホストファミリーとのお別れがつらすぎて涙が止まらなかったけれど感謝の気持ちを込めて最高の演技をすることができた。（文責：高根万理香）



8月5日 フェアウェルパーティ

ホームステイ最終日。今までたくさん練習してきたフェアウェルパーティ。もちろんすべて英語での説明。ちゃんと伝わるか心配でしたが、何度も練習した甲斐あってしっかり言うことができました。みんなで考えてきたダンスも楽しく踊りきれました。そうきんがけリレーやいす取りゲームは大盛り上がり♪楽しんでもらえてよかったです。サンキューメッセージでは、今までの経験してきたことを思い出し、泣きそうになりました。それだけ、ホストファミリーには感謝しているし、離れたくないと思いました。いつか必ずもう一度ホストファミリーに会いに行きたいです！（文責：長友芽美）



8月6～7日 帰国

帰りの飛行機は、真昼の時間だったのでまったく寝れなかった。この10時間は結構きつかった。帰りのバスで、日本に帰ってきた実感が湧いた。同時にホームステイが終わったんだという実感も湧いた。（文責：三山泰平）



8月7日 帰国報告会



アメリカでのホームステイと観光の12日間が終わり、長いフライトを終え、今度はバスで守谷市役所に帰ってきました。その後、帰国報告会でした。派遣者が全員発表ということでしたが、私は途中まではきちんといえましたが、後で頭が真っ白になってしまいました。報告会も終わり、無事に家に帰ることができました。（文責：平野皓士）

8月18日 事後研修

アメリカから帰国して10日後、久しぶりにみんなの顔を見る事が出来て、とても嬉しかったです。やはり、共に12日間を過ごしたみんなは、わたしの中でかけがえのない仲間になっていました。また、反省会では、各自の思うよかった点や悪かった点を発表し、今後の海外派遣をよりよくすることにつながったのではないかと思います。18日、19日に行われた北守谷祭りの手伝いも、みんなで協力して楽しいお祭りにできました。研修を含めた、この海外派遣では、異文化コミュニケーションを学べた他、仲間との絆など多くの事を得る事ができました。この経験を生かし、これからも自分の目標に向かって努力していきたいです。（文責：近藤真由）



守谷からのプレゼント「米粒人形」

グリーリー市からいただいたお皿は市役所ロビーにて展示されています。



派遣団員報告書

須山 魁

丸田 典

平野 皓士

三山 泰平

須田 唯華

吉井 万絢

水元 優花

屋嘉部 みく

高根 万理香

長友 芽美

近藤 真由

横瀬 彩和子

天野 紳一（団長）

寺田 茂紀（引率者）



忘れられない12日間の旅



土浦日本大学中等教育学校 1年 須山 魁

アメリカで過ごした12日間は、とても早く終わり、本当は一生終わってほしくありませんでした。観光中、ホームステイ中に起きた一つ一つの出来事は、かけがえのない思い出になりました。

最初観光で、サンフランシスコを回ったときに受けた第一印象が、アメリカが大きいということでした。東京の建物よりも高い建物がずっと建ち並び、日本人よりも身長の高い人がたくさんいるアメリカに来て、12日間の旅がとても楽しみになりました。サンフランシスコではフィッシャーマンズワーフ、ゴールデンゲートブリッジを見て回りました。ゴールデンゲートブリッジは、見てすぐに感じたことは、長いということです。サンフランシスコ湾には、アル・カボネの収容されていた、アルカトラズ島が見えました。三日目に見に行ったグランドキャニオンは広く、深い地層がくっきりと見える、何万年もの歴史を感じるところでした。

観光が終わった後、今回の研修のメイン、グリーリーでのホームステイ開始！僕をとめてくれたホストファミリーに僕ぐらいの子供がいませんでした。でもお母さんのディーはいつも笑顔で接してくれて、とても話しやすい人でした。お父さんのケントは、知り合いが多く、色々なことに対して気をつけてくれる優しい人でした。楽しい日々をおくっているなか、とつぜん猫アレルギーが出て、近くのホストファミリーに代わってしまいました。新しいホストファミリーにも僕ぐらいの子供がいませんでした。小さい女の子が二人いました。ふたりともまわりによく気づいて、ていねいに接してくれました。お父さん、お母さんもやさしいかたで、いいホストファミリーでした。

最終日、フェアウィルパーティーが終わり家に帰った後、近所の人と一緒にキャッチボールをしました。アメリカではじめて野球をやりました。その後ホームパーティーが終わり、ベッドに着いたときに、今までの生活が、鮮やかによみがえりました。気づいたら涙を流していました。次の日の早朝、グリーリー市役所前でみんなと抱き合い別れました。別れる前に、「また遊びに来てね。」と言われまた、涙を流していました。

こんなすばらしい体験させてくださった守谷市役所市民協働推進課の皆さん、グリーリー市の皆さんそして、ふたつのホストファミリーの皆さんお世話になりました。アメリカに送り出してくれたお父さんお母さん本当にありがとう。





最高の夏休み



守谷市立守谷中学校1年 丸田 典

成田から飛行機に乗って10時間。長いフライトが終わり、ようやくアメリカのサンフランシスコに着きました。アメリカは日本と違い空気がとても乾燥していて、飛行中に鼻血が3回も出て、「Are you OK?」と言われてしまいました。

サンフランシスコでは念願のバスケットシューズを買いました。バスケットの本場アメリカで、バスケットシューズを買うという夢がかない、とてもうれしかったです。ゴールデンゲートブリッジは「金色」だと思っていましたが、実際は赤い橋でした。グランドキャニオンは底が深く、想像以上に大きく、迫力がありました。翌日、そこで見た朝日はすばらしく、今でも忘れられません。

5日目になり、ドキドキしながらホームステイがはじまりました。最初に逢ってすぐ、シーガルさんがやさしい人達だと分かり、不安もとれました。家に着くと庭がとても広く、駐車場にはバスケットゴールがあり、部屋は10部屋以上ありそうで驚きました。日本からメールで「一緒にバスケットがしたい。」と言っていたので、早速、ニコラス達とバスケットをしました。その日の夕食には、なぜか「黒豆」が出てきました。また、夜の公園に車で映画を見に行ったりしました。「公園で映画を見るなんてまさにアメリカだ!」と思いました。映画の内容も結構わかったのでおもしろかったです。そして、プールにも行きました。プールでもニコラス達とバスケットをしました。ニコラスは2歳下でむじゃきで、やんちゃでした。

初めてのアメリカは驚くことばかりで、楽しかったです。シーガルさんがホストファミリーで本当によかったです。夏休み1番の思い出になりました。

アメリカ最高!!





忘れられない思い出



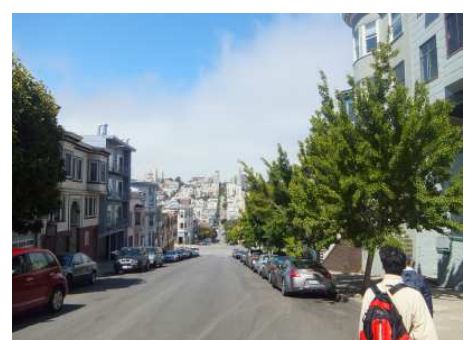
江戸川学園取手高等学校1年 平野 皓士

私は、今回の派遣事業を通してたくさんのことを学びました。そして、現地に行ってこそ体験、発見できることをこの派遣事業で得てきました。

まず、アメリカに着いて思ったことは、何もかもが大きいことと、気候が日本とはまるで違うことでした。アメリカでは、夏は乾燥していて日本と同じくらいですが、体感温度は涼しくてとても過ごしやすい気候でした。サンフランシスコでは、ゴールデンゲートブリッジやフィッシャーマンズワーフなどの観光をして、とても楽しかったです。グランドキャニオンでは、日本では決して見ることでできない大自然を見ることができました。しかし、朝早くに行って、グランドキャニオンから朝日が昇るところを見ようとしたのに、雲で隠れてしまってみることができなくて残念でした。

ホームステイの家族と初対面の場所となるグリーリーの市役所で、私は戸惑っていました。なぜなら、英語が通じなかったらどうしようという不安でいっぱいでした。しかし、私のホストファミリーの Segal さんは私にやさしく接してくれて、わかりやすい英語で話してくれてとても良かったです。ホームステイの家について思ったことは、日本よりずっと大きくて、広い家だったことです。また、地下室もあり私たちはそこで寝ました。Andy さんとはいろいろな話をしました。また、アメリカでしか出来ないような事をたくさんさせてもらいました。ホームステイでの食事はやはり日本より多く、食べきれないほど出ました。私はアメリカンハンバーガー屋で BANZA I というよく分からないものを注文しましたが、とても量が多くて食べきれないほどでした。しかし、とてもおいしかったです。また、ショッピングに行ったとき、ショッピングするのに何十キロと車を運転していかなければ買い物すらすることのできない生活で驚きました。そこは、日本だと自転車をこげば、買い物は普通のできるの日本のほうがいいと思いました。

私にとって、この派遣授業はかけがえのないものでした。この経験を忘れずに、国際交流をしていきたいと思います。





初めてのホームステイ



早稲田大学高等学院2年 三山 泰平

ホームステイの前日、私は言いようのない不安におそわれていました。ホストファミリーに英語は通じるのか、ホストファミリーはどんな人なのか、食事はどんなものが出るのか…。

UCCCに到着して「歓迎」の文字が入った旗を目にした時は、いよいよホームステイが始まるんだと実感しました。そして、そこでホストファザーの John さんとマザーの Wendy さんに初めて会い、車で家まで連れて行ってくれました。

始まってみると、自分が抱えていた不安というものは、いつの間にか無くなっていました。ホストファミリーとの生活が、日本での生活とあまり変わらなかったというわけではありませんでした。家での生活、食事の味付け、体格の大きさなどほぼすべてのことが日本とは異なっていました。しかし、その変化に自分がもう戸惑わなくなっていたんだと思います。

ホストファミリーと過ごした日々はとても楽しくて、とても有意義でした。また、とても早く過ぎていってしまった気がしました。17歳の Tanner は自分とほぼ同年代なのに、背が高かったり、また車を運転していたりと、まるで歳の離れた兄みたいでした。Tanner はその車でショッピングセンターやよく行くというファストフード店などに連れて行ってくれ、そのおかげで、アメリカでの日常生活を体験できたと思います。また Wendy と John はグリーリーの歴史や特徴などを教えてくれたり、車で1時間ほどのところにある有名な街に連れて行ってくれたりしました。その街では、いたる所でストリートパフォーマンスをしている人がいました。その中には、郵便番号だけで、その人がアメリカだけでなく世界中どこから来たのかを当てる、というものもありました。

このホームステイを通して自分が得たものは何かと聞かれると、正直よく分かりません。ただ、少しでも自分の価値観はかわってきていると思います。何かやってみようと思ったり、とりあえず進んでみようと思ったり。これらの変化が将来には、大切な変化になっているよう、これからも頑張っていこうと思います。





かけがえのない12日間



江戸川学園取手中学校1年 須田 唯華

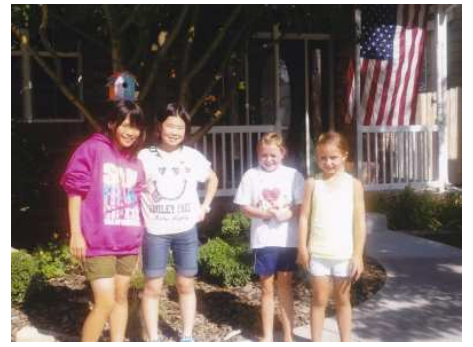
アメリカで過ごした12日間はあっという間でした。夢のようなものばかりでとても充実したものでした。

滞在期間の前半はサンフランシスコの市内観光やグランドキャニオン観光です。サンフランシスコでは主にショッピングを楽しみました。初めてのアメリカドルなので、料金の支払いに戸惑いました。つついとお札で支払ってしまい、財布が小銭だらけという悲惨な結果も…。そんな時周りのみんなが助けてくれました。コインが何セントか教えてくれたり、一緒に会計をしてくれたり…。そのおかげで小銭での会計にも慣れ、自分の財布も軽くなりました。みんな、ありがとう。サンフランシスコの海辺には野生のアザラシがいました。遠くから見える小さな岩のかたまりは何十匹の群れだったのです。水族館で見たことのないアザラシを自然な姿で見ることができ、とても興奮しました。

グランドキャニオンは自分が思い描いていたものと違い、スケールも大きく驚きました。グランドキャニオンとは、長さ450メートル、深さ1600メートルに及ぶもので、コロラド高原をコロラド川が浸食して形成されたものです。こんなにも広大な景色を生み出してしまう自然の力ってすごいなと思いました。写真は何枚も撮りましたが、写真だけでは伝わらないものがグランドキャニオンにはあり、その迫力は「見てよかった」の一言です。

後半は私が楽しみにしていたホームステイです。生活して分かったことは、英文を話せなくても、英単語と身振りで通じることです。扉を指して「close OK?」と聞いたら「Yes!」と返してくれました。理解してくれた時は本当にうれしかったです。でも、コミュニケーションはやっぱり会話です。6歳の子が会話しているのを見ると、一緒に会話できないくやしさを感じました。英会話がしたいと強く思った瞬間です。この思いと経験は今後の英語学習に生かしていきたいです。再びホストファミリーに会った時は楽しく会話をしたいです。

最後に、12日間共に行動してくれた天野さん、寺田さん、西古さん、お世話になりました。私がアメリカに行き、無事に帰国できたのはみなさんのおかげです。ありがとうございました。





大好きなアメリカとホストファミリー



守谷市立守谷中学校2年 吉井 万純

アメリカで過ごした12日間は、私にとって宝物です。行きの飛行機ではわくわくが止まりませんでした。アメリカで感じたのは、大きくて広いことです。目に映るものすべてが新鮮でした。観光で印象的だったのは、グランドキャニオンです。自分はとても小さい存在だと感じました。とにかく大きくて、どこまでもどこまでも山山で驚きました。

でも一番の思い出は、ホームステイです。会う前は不安だったけれど、家についてベッドを見ると、『Welcome Maaya』の文字のポスターと、プレゼントが置いてあって、嬉しくて、涙が出そうになり、不安が吹き飛びました。私のステイ先は3人家族でした。マイクは力持ちで、いつもニコニコしてやさしいお父さんでした。お母さんのニコルは、陽気で明るく、いつも私を、元気にしてくれました。4歳のグレースは、とても可愛くて、一緒にたくさん遊びました。一緒にオリンピックを見ながら、折り紙を教えたり、Tシャツを染めたり、オーロラ姫を見たり、ハイキングに行ったり、書き出したら止まらなくなります。言葉が違って、伝えたいと思って話せば、伝わり仲良くなれると分かりました。最後の日は、一緒に荷造りをしてくれました。グレースにトロール人形をもらいました。私の宝物です。お別れの日、本当は笑顔でいたかったけれど、やはり涙が止まりませんでした。ニコルの車の中で、『ありがとう』や『大好き』など、照れくさくて今まで言えなかったことも言いました。『あなたは笑っているほうが良いわ』と言われて、『いつでも戻ってきて』と言われて本当に嬉しかったです。アメリカにも家族が出来ました。

たくさんの人に出会い私も成長することが出来ました。日本に戻ってきて、改めて貴重な経験をしてきたのだと感じました。もっと、英語を勉強して、またホストファミリーに会いたいです。12人の団員のみんなが大好きになりました。このような機会を与えてくださった方々に本当に感謝します。思い出を大切に、アメリカに行ってきた自分に自信を持って、自分の夢に向かってがんばろうと思います。





最高の夏休み



常総学院中学校2年 水元 優花

私は12日間でとてもいい経験ができました。

1日目と2日目で行ったサンフランシスコ市内観光はどこを見ても街並みがとてもきれいでした。日本もこれくらいきれいだったらいいのと思いました。

楽しみにしていたグランドキャニオンは想像以上に大きく、距離感がよくつかめませんでした。ここを上ったり降りたりしている人は本当にすごいと思いました。

あの深さ、広さは写真とかではなく、目で見ないと分からないと思います。しかし目で見てもよく分かりません。

そしてホームステイの初日がやって来ました。私はメールを何度か書いたけれど、書くのと話すのでは全く違うので、ちゃんとコミュニケーションがとれるか心配でした。

しかしホストファミリーは本当に優しく、思ったより英語が聞き取れたのでとてもうれしかったです。

私が一番楽しかったのは乗馬でした。馬に乗ったときの高さは本当に気持ちのいいものでした。ずっと歩きだったけれど、いつか、また乗れる機会があったら走ってみたいと思っています。

そしてうれしかったのはコロラドロックーズの試合を見た時にファールボールを貰ったことです。隣に座っていた私のホームステイ先の同い年の女の子である Kelli と椅子の間に挟まったものを貰いました。

また、私のホストファミリーと家が近く、ホストファミリー同士の仲がいい家で、テントを2つ建て、それに家のようなTRANSPORINを建てて、そこで寝て、遊びました。この家にいる2人の女の子たちはとてもかわいくて、一緒にゲームをしたりして遊んだりしました。

また、私のホームステイ先のホストマザーの Laura と仲良しの家のホストマザーの Andrea には本当にいろいろな所へ連れて行ってもらいました。Kelli には色々な店を紹介してもらいました。

私のアメリカ滞在を手伝ってくださった皆さん、本当にありがとうございました。





I will be back again!



守谷市立御所ヶ丘中学校2年 屋嘉部 みく

今年の夏、私にとってかけがえのない一生の宝となるたくさんの出会いがありました。最初の4日間の観光では、私の英語がどのくらい通じるのかドキドキわくわくしながら買い物を楽しみました。自分の英語が通じたときは本当にうれしかったです。

アメリカのスケールの大きさや文化の違いに圧倒されているうちに、あっという間に一番楽しみで一番緊張するホームステイの日になってしまいました。

Are you OK?

UCCC に着いてすぐホストマザーの Andrea がやさしい英語で話しかけてくれました。家族の元へ行きあいさつを交わして5日間のホームステイが始まりました。

ホームステイ中一番うれしかったことは何と言ってもホストファミリーの優しい気持ちを感じられたことです。

お父さんの Ken は、毎朝優しい笑顔で挨拶してくれました。そこから私の楽しい一日が始まります。

お母さんの Andrea は心のこもった料理を作ってくれました。本当においしく元気の源になりました。

子供たち Lauren と Madison はいつも私の体調を気にかけてくれました。二人のおかげで毎日楽しく元気に過ごせたのだと思います。

最初は不安で必要最低限しか話せなかった英語も、日が経つにつれ伝えたいことがどんどん増えていき失敗を恐れずたくさんおしゃべりできるようになりました。

私のつたない英語を一生懸命理解しようとしてくれる優しい家族に感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の旅で、うまく話すことよりも気持ちをこめて話すことが大切とあらためて感じ、コミュニケーションの大切さを痛感しました。

今回の研修に参加させていただけたことに感謝しています。

活動を支えてくださった多くの方々本当にありがとうございました。

また必ずグリーリー市に行って Haring Family に会いたいです。

I will be back again!





14歳から15歳へ～最高の夏～



守谷市立御所ヶ丘中学校3年 高根 万理香

将来の夢に一步でも近づけるように、とアメリカへ旅立った14歳の私。この12日間で学校や本からも学べない新しい発見や初めての経験をすることができた。

サンフランシスコではとてもきれいな街並みの中を主導のケーブルカーや2階建てバス、路面電車など日本では見られない乗り物がたくさん走っていた。また、ケーブルカーに乗車して街を観光した後、海岸でベイブリッジや野生のアザラシを見ることができ、とても楽しかった。グランドキャニオンではどこまでも広がる雄大な景色に思わず息を呑んだ。何千年もかけて出来た地球の宝物に感動し、これからも守っていかなくてはならないな、と改めて感じさせられた。デンバーに到着し、州議会議事堂や自然歴史博物館を見学。議事堂はまるでお城のようだった。観光が終わるとグリーリーへ出発！緊張しながらも、期待と好奇心で私は自然と笑顔になっていた。いよいよ私のホストファミリーであるAderファミリーと対面。笑顔で私に話しかけてくれたママのターシャとニコニコして手をつないでくれた4人兄弟のお姉ちゃんヘイリーのおかげですぐにファミリーの一員になることができた。その日の夕飯に連れて行ってもらったピザショップのピザは大きくて、私のアメリカに来たもう1つの目的である「BIGサイズのものさがし」を1日目で見つけてしまった。2日目は楽しみにしていた乗馬！アメリカの雄大な山や川、野原などの自然を肌で感じ、野生動物を間近で見ることができた。ランチのピクニックは自然の中だとよりおいしかった！3日目はグリーリーの青少年委員とファミリーファンプレックスで交流した。屋外でパターゴルフをした後、お昼はバーベキューだった。アメリカらしいハンバーガーやホットドッグなどの物が並んでいて、いろいろ食べていたらお腹はパンパンだった。たくさん食べた後はたくさん運動！と思い、みんなでバスケット、バレーをした。たくさん汗を流したので、次はプール！ウォータースライダーや3mプールで楽しんだ。夜は野球観戦へ。ルールがよくわからない私でも試合はすごく興奮した！最終日は私の誕生日。フェアウェルパーティの初めに皆がお祝いしてくれて嬉しかったな。パーティではバイオリンの演奏やダンスに感謝の気持ちを込めて一生懸命できた。ファミリーとのお別れはつらくて涙が止まらなかったけれど、最後は笑顔で「また来るね」と言うことができた。この夏夢に向かって一歩成長し、15歳になったわたし。次は将来の夢を叶えて大好きなグリーリーに恩返しをする番だ。





夢のような12日間



茨城県立水海道第一高等学校1年 長友 芽美

アメリカで過ごした12日間は本当にあっという間でした。日本とは違うことばかりで毎日が楽しかったです。アメリカはとにかく大きい！自然も建物も食べ物も服も・・・(笑)

まずはじめに行ったサンフランシスコではゴールデンゲートブリッジに行きました。自分が絵葉書の中にいるんだと思い、うれしくなりました。また、shopping も楽しかったです。

次に行ったのはラスベガス。6時間くらいかけてバスでグランドキャニオンに行きました。教科書でしか見たことのなかった景色を目にし、迫りに驚きました。そして、なにより写真では伝わりきれない自然のすごさに感動しました。早起きしてみたグランドキャニオンからの朝日は今も覚えています。

こうして、4日間の観光を終え、待ちに待ったホームステイ！最初は緊張したけれど、ヘレラファミリーが笑顔で迎えてくれたので和らぎました。また、家がとても広くてびっくりしました。そして、お父さんのRobやお母さんのCassie、長女のKenli、長男のKole、みんな親切で明るい人たちでした。私のあいまいな英語でも一生懸命聞き取ろうとしてくれて嬉しかったし、毎日のご飯もおいしかったです。特にバーベキューで食べたハンバーガーとお肉がおいしかったです(笑)その他にもshopping に連れて行ってもらったり、KenliとKoleと家で卓球をしたり、映画を見たり、モンスターゲームをしたり、たくさん遊びました。二人の笑顔を見ると私も笑顔になります。毎日、笑いが絶えない楽しい家族でした。

最終日のフェアウェルパーティは、たくさん練習した甲斐あって、ダンスも楽しく踊りきれたし、ゲームも盛り上がりました。みんなに楽しんでもらえてよかったです。サンキューメッセージでは、今まで経験したことを思い出し、泣きそうになりました。

ヘレラファミリーと過ごした6日間は本当に本当に楽しかったです！

この派遣事業を通して、言語や文化が違ってても、人と関われるということ学びました。夢のような12日間は私の一生のたからです。忘れません。

今回このような機会を与えてくれたヘレラファミリー、グリーリーの皆さん、守谷市役所の方、家族。そして、協力し合った団員のみんな。本当にありがとうございました。





my treasures!



茨城県立竹園高等学校2年 近藤 真由

12日間のアメリカ派遣は、私にとってとても意味のあるものとなりました。異文化を受け入れ、他国語ばかりの環境に身を置くという事が、私の世界観を広げ、新たな価値観やコミュニケーションのとり方を教えてくれました。今回の海外派遣で行った、サンフランシスコ、グランドキャニオン、デンバー、そしてグリーリーはどこも魅力的な場所でした。グランドキャニオンは、写真やテレビで見るより実際はとても広大で、神秘的な空間にいるようでした。そして特に、グリーリーでのホームステイは一生忘れる事のない経験となりました。ホームステイ日目は正直不安な気持ちもありましたが、ホストファミリーが温かく迎えてくれ、すぐその不安は消えました。それからの毎日は、すごく楽しくて、ホストファミリーと過ごす時間はかけがえのないものでした。ホストファミリーと一緒にテレビでオリンピックを見たり、2日間連続でバーベキューをしたり、休日はショッピングにいったり、みんなでタコスを食べたり・・・ここに書ききれないほどたくさんの思い出ができました。また、言語や文化がそれぞれ違ってても、ホストファミリーと絆ができ、私のなかで宝物になりました。この絆をこれからもずっと大切にしたいです。ホストファミリーから、「あなたは家族だから、いつでもここに帰ってきてね」ということばを聞いた時には、ほんとに嬉しくて、心が温かくなりました。そんなホストファミリーと次に会う時には、もっともっと色々な話ができるように、これから英語を今まで以上に頑張ろうと思いました。この12日間の思い出と経験を糧に、将来の目標に向かって、自分自身を向上させていきたいです。





ホームステイを終えて



東洋大学付属牛久高等学校2年 横瀬 彩和子

今回、私がアメリカに行った目的は日常会話を出来るようになるためでした。しかし目的を達成することができたかは分かりません。ホストファミリーや現地の方と話す中で分からない言葉はたくさんあったし、伝えたいことをうまく言葉にすることができない場面もありました。しかしその分、漠然と習った英語が相手に理解してもらえたときは嬉しかったです。そして、行く前よりもコミュニケーションをとれるようになりました。最初に会話をしたのはホストファザーのケントでした。「Hi! What your name?」と明るく尋ねてくれたので、私も明るく「SAWAKO!」と答えました。何度か自分の名前を言い直しましたが聴きとってもらえず、結局名前を覚えてもらうのに2日間程かかりました。(笑) わたしのホストファミリーの家は、みく、ゆいかの家やゆかの家が近かったため、ほとんど3家族で一緒に過ごしていました。ボーリングやダンスをしたり、庭でパーティをしたり、ひらがなの練習やショッピング。ホストファミリーの親戚が来て一緒に日本食を食べたこともありました。「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」などの日本語を覚えて使ってくれた時は、私たちが話している英語も現地の方たちにはこんな風に聞こえてるのかなぁと思いました。最終日、一人一人の名前が書いてある袋をくれました。中にはアルバムが入っていて、最初の写真には「ありがとう Thank you!」と書いてありました。どの写真もみんな、行く前の不安など全く感じさせないほどの笑顔でした。お別れの時は悲しかったし、帰国後もアメリカで聴いた曲を聴いて、アメリカで撮った動画を見て、楽しかったなぁと振り返っています。そして今、この作文を書いて、またさらにアメリカに早く戻りたいという気持ちが強くなりました。次は会話に困らないような、成長した自分で逢いたいです。この事業に参加でき、ここから良かったと思っています。受け入れてくれたホストファミリーや協力して下さった方々、本当にありがとうございました。





第22回守谷市青少年海外派遣事業に参加して



団長 守谷市国際交流協会理事 天野 紳一

「守谷市青少年海外派遣事業」に各自の目標（留学、医者、スポーツ、宇宙飛行士など）を持つ生徒が応募してアメリカに行くことになりました。生徒たちは各自の目標や目的を達成できるように、見て、聞いて、会話して、経験するように短いながらも事前研修でがんばりました。

特にグリーリー市では「生徒交流プログラム」としてホームステイを行いアメリカの家庭生活を経験しました。ホームステイ最終日に行ったフェアウェルパーティの準備や、プログラムの作成は生徒たち自身で行い、その内容はグリーリー市でも高い評価を受けました。

地元の「The Tribune」という新聞に「East meets West」というタイトルでこの生徒交流プログラムが記事として掲載されましたし、YouTubeにも Greeley 市がビデオを掲載して、「Students Exchange Program」を紹介しています。

8月5日夕方、グリーリー市のフェアウェルパーティタ食会で行った、守谷市青少年海外派遣事業の団長挨拶文（英語）と日本語訳を掲載して報告いたします。

I'm Shinichi Amano (a leader of this group) and would like to thank everyone involved with this program. I especially want to thank Jill Droegemueller for her leadership and all of the host families for their hospitality toward our students.

The world has faced several challenges over the past few years including a global recession, and a major Earthquake in Japan.

These events made it difficult to continue to develop our sister city program between Moriya and Greeley.

However, the situation is improving and we were able to renew the development of the sister city program. We were pleased when we received the message that the city of Greeley accepted our proposal and would welcome our young boys and girls as part of the Student Exchange Program.

Each one of the boys and girls here have their own dreams. For example studying abroad, to become a medical doctor, or to become an astronaut, etc.

The boys and girls here have their own goals and they will utilize their experiences here for their lifetime activities



getting support from all of you.

We thank all of the Host Families, supporters and representatives from the both City governments and especially the Mayors.

Our children have benefited tremendously from the 2 month pre-visit training and from this trip to the US. They visited several sites in the US and Colorado such as San Francisco, Grand Canyon, Estes Park and the Home Stay experience with the host families.

I believe that the growth of young people is very important for both of our countries; this Student Exchange Program provides the type of growth that will benefit all of our children. We hope that this exchange program will become a permanent part of the Sister City Relationship between Moriya and Greeley. We are ready to welcome your students to Moriya City next year.

Last but not least, next year will be the 20th anniversary for the sister city agreement between Moriya City and the city of Greeley. We hope to work with you to celebrate this occasion.

Thank you all for your commitment, involvement, participation and outcome.

(日本語訳)

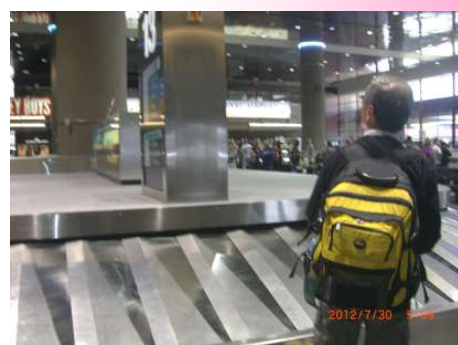
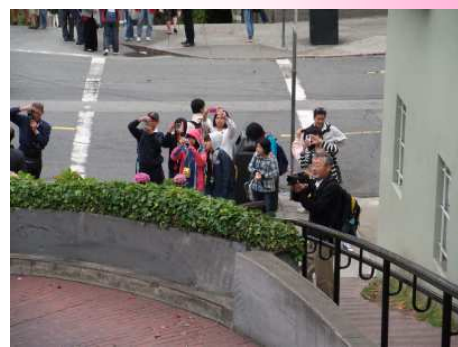
この訪問団の団長、天野紳一がこのプログラムに関わった全ての方にお礼申し上げます。特に Jill Droegemueller さんのリーダーシップと生徒たちに対するホストファミリーの皆様の親切なもてなしに感謝します。

過去数年の間は世界はいくつかの難問、すなわち地球規模での景気後退や日本における東日本大震災などを経験しました。これらの出来事は守谷市とグリーリー市の姉妹都市交流プログラムの進展にも影響しました。

しかしながら、状況は改善し姉妹都市交流プログラムの新展開が可能になりました。わたしたちはグリーリー市が守谷市からの生徒交流プログラムを受け入れるというメッセージを受け取り大変嬉しく思いました。

ここにいる青少年はそれぞれ自分の夢を持っています。例えば、海外留学をしてみたい、医者になりたい、宇宙飛行士になりたいなどの夢です。ここにいる、自分の目標を持つ青少年は皆様のお力添えにより経験できたことを生涯役立てていくことでしょう。

ホストファミリーの方々、グリーリー市と守谷市の役所のご担当



者の皆様，支援してくださった方々，とりわけ市長，どうもありがとうございました。

生徒たちはこの2ヶ月間余り，事前研修とアメリカ旅行で多大な恩恵を受けました。生徒たちは米国とコロラド州でいくつかの場所に行きました。サンフランシスコ，グランドキャニオン，エステスパーク，そしてホストファミリーと一緒に過ごしたホームステイです。

わたしは若い人たちの成長は両国にとってとても大事だと信じています。この生徒交流プログラムは子どもたちすべてにとり，役に立つ様々な発達を提供します。わたしたちはこの生徒交流プログラムが守谷市とグリーリー市の姉妹都市関係の常設プログラムになることを願っています。わたしたちは皆様方の生徒たちを，来年，守谷市でお迎えする準備ができています。

最後ではありますが，来年は守谷市とグリーリー市が姉妹都市交流締結20周年記念の年です。この祝福すべき記念の年を共に祝いたいと願っています。

皆様の献身，関わり，参加，成果に感謝します。





もうひとつの家族が待つ場所へ



引率者 守谷市役所市民協働推進課主事 寺田 茂紀

平成24年7月27日。茹だるような暑さのなか、私を含めた14名の団員は、もうひとつの家族が待つアメリカへと出発しました。

これまで、グリーリー市への海外派遣は隔年で行っていましたが、前回の派遣は諸事情により中止となってしまう、それ以降、グリーリー市とは目立った交流をすることができずにいました。そんな折に再開された今回の派遣は、言わば守谷市とグリーリー市の交流再開の始めの一歩でした。

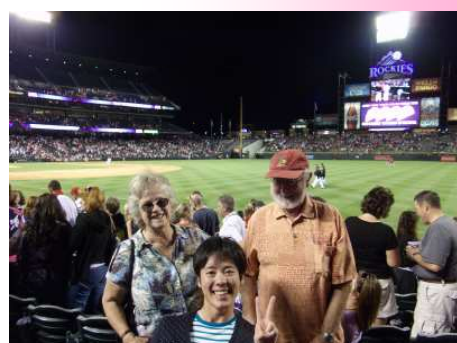
最初に降り立ったサンフランシスコは、風が強くて肌寒かったものの清々しい天気。団員たちは長旅の疲れも見せず、さっそく英語での買い物を楽しんでいるようでした。しかし、ゴールデンゲートブリッジに行くとその周辺だけ天気が一変。橋の上部は霧に包まれ、一層肌寒くなりました。ツインピークに到ってはもう雲の中。晴れていればサンフランシスコの街並みが一望できるそうなのですが、あたり一面真っ白でした。「寒い!」と言いつつも、カメラを向けるとしっかりピースサインをする団員たちが微笑ましかったです。翌日はサンフランシスコ名物であるケーブルカーに乗車し、坂の街を堪能しました。午後にショッピングをした際、団員が欲しがっていたバスケットシューズを購入するために、時間いっぱいまで粘り、集合場所まで全力疾走したことは良い思い出です。

そしてグランドキャニオンへ。「息を呑む」とはまさにこのことを言うのでしょう。突然目の前に開けるその圧倒的なスケールからは、大自然の力強さや膨大な時の流れが感じられます。また、私たちが到着したのが夕立の後であり、夕日に照らされるグランドキャニオンと遠雷が織り成すコントラストは見事なものでした。写真やテレビの映像では窺い知ることのできないその雄大な景色に、団員たちも何かを感じたことでしょう。

翌日はデンバーで一泊。そして、いよいよグリーリーに向けて出発です。車中では、普段から騒がしい団員たちがより一層騒がしくなりました。彼らなりの緊張の現れだったのか、それとも楽しみで仕方なかったのでしょうか。ユニオン・コロニー・シビック・センター（UCCC）にて、それぞれのホストファミリーと初対面。グリーリー市長の挨拶や、ホストファミリーとの写真撮影を終え、団員たちはそれぞれの家へと向かって行きます。団員たちのホームステイがいよいよ始まりました。

団員たちがUCCCを去ってからというもの、根っからの心配性である私は「団員たちはステイ先でうまくやれるだろうか。」という不安でいっぱいでした。しかし翌日、団員から返ってきた答えは「大丈夫ですよ。」と非常にあっさりとしたもの。さすがと言うか何と言うか。団員たちの順応性の高さ、肝の据わり具合には度々驚かされました。（団員たちはこれ以前にも、髪をオレンジ色と紺色に染めた強面のアメリカ人に、一緒に写真を撮ってくれるように声をかけたりすることも。）

団員たちのこの長所はとある場面でも発揮されました。ホームス



テイ3日目に、グリーリー市の学生たちと交流する機会がありました。思春期の子どもたちというのは日本もアメリカも同じなのでしょうか。彼らはとてもシャイで、団員たちがホストファミリーと遊んでいるなか、ただそれを眺めているだけでした。見かねて団員たちに「彼らにも声をかけてあげて」と言うと、すぐに話しかけ、一緒に遊び始めたのです。その様子を見て、私の心配は無用だったと確信することができました。

ホームステイ前半は、他にも、エステスパークでの乗馬体験や野球観戦などを楽しみました。野球観戦では、団員がファールボールを手に入れたり、私がモニターに映るなどして、柄にもなくはしゃいでしまいました。

ホームステイ後半は、各々ホストファミリーと一緒に過ごしました。団員たちは、きっと有意義な経験をしたことでしょう。

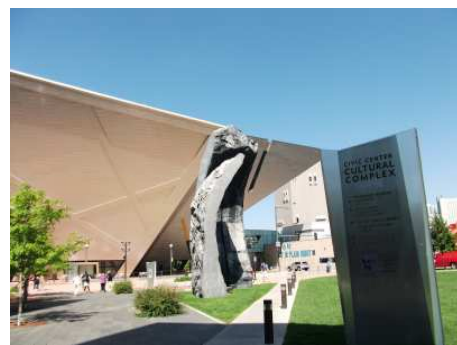
私自身も、コギンズ夫妻のもとでホームステイをさせていただきました。近所の公園まで犬の散歩に行く、お店に夕食の材料を買いに行く、お隣の奥さんと世間話をする、そういった日常の生活をできたことは、とても良い経験になりました。その他にも、デンバーに住む息子さんの家族とお茶をしたり、バッファローの肉を使った料理を振舞ってくれたり、二人は本当の家族のように迎え入れてくれ、大変お世話になりました。

アメリカを発つ前日の夜に、団員たちによるフェアウェルパーティが催されました。これまでの練習の成果が遺憾なく発揮され、素晴らしいものとなりました。ホストファミリーの皆さんも、楽しんでくださったことと思います。団員たちがサンキューメッセージを読みながら感極まって泣いてしまったのを見たとき、彼らにとってこのホームステイがかけがえの無い経験になったことが感じられ、そして私自身も同様にこみ上げるものがありました。私はその後に挨拶を控えていたので、泣かないようにと無理して笑っていましたが、最後にはやっぱり泣いてしまいました。

お別れの朝。団員たちはそれぞれのホストファミリーと涙しながら抱き合い、別れを惜しんでいましたが、最後は笑顔でお別れをすることができました。彼らの思い出話は尽きることがなく、まるでお別れなど無かったかのように、バスの中はとても賑やかでした。きっと、また帰ってくるという強い思いがあったからでしょう。彼らのことです。数年後には自分の力でグリーリーへと向かっているかもしれません。

団員たちは今回の派遣で、外国の人たちと交流することの楽しさ、言葉が違って思いが通じること、そして人と人との絆を知りました。彼らはこれからも、守谷とグリーリーの架け橋として活躍してくれることでしょう。そして、この経験をこれから生かして、それぞれの夢を実現してくれることを願っています。

最後に、温かく我々を迎えてくださったグリーリー市の皆さん、事前研修からご協力いただいた国際交流協会の方々、事業の決定から最後まで支えてくださった事務局の皆さんにお礼を申し上げます。また、団員たちのみならず私の面倒まで見てくださった天野団長、全面的に現地でのサポートをしてくださった添乗員の西古さん、そして、こんな頼りない引率者に最後までついてきてくれた12人の若者たちに感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。



フェアウェルパーティー プログラム



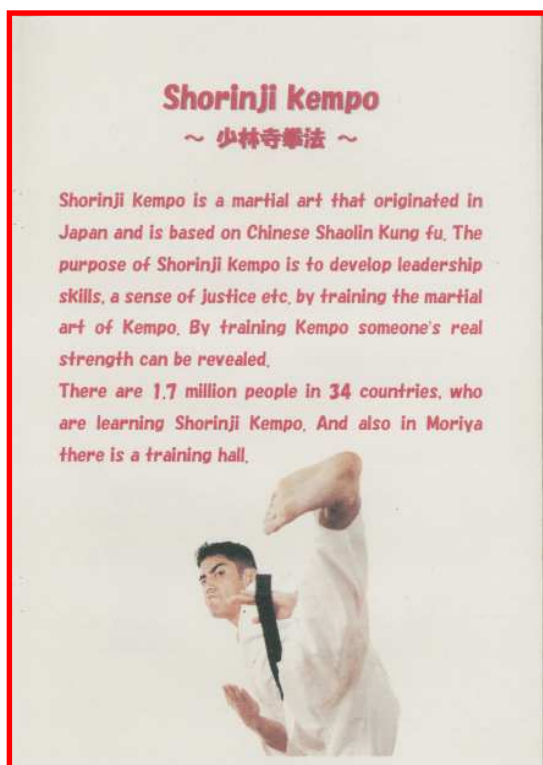
(表紙)



(プログラム)

(少林寺拳法)

(ダンス)



☆ "Moriya Ondo" ~ 守谷音頭 ~

"Ondo" is a song/dance for summer festivals. Moriya was founded on April 1st 1889. In 1989 it became 100 years old. To commemorate the 100th anniversary, "Moriya Ondo" has been created. Every citizen of Moriya knows that song and has sung or danced it at least once in their life. So please enjoy!



(守谷音頭)

Wiping relay game
(Zoukingake relay game)

~ 雑巾がけリレー ~

Over generations Japan has had a certain cleaning method to wipe the floor with a dust cloth. It's called "zoukingake". But this time it'll be a game, a relay race to compete for wiping speed. You will be divided into four teams. The starter wipes from one end to the other and then back to the start. Then, the next person goes. Since the game is fun and the floor becomes clean, it is killing two birds with one stone. Which team is going to win?



(雑巾がけリレー)

(歌詞: Take me home,
country road)

Musical Chairs

~ いす取りゲーム ~

Line up chairs in a circle, one less than the number of players. The players move around the chairs while the music is on. When the music stops, sit down on a free chair. The player without a chair is out. Take away one chair after each round. Repeat this until you have only 2 players and 1 chair. The one to sit down first on the last chair is the winner.



Take me home, Country Road

Lyrics B.Danoff/T.Nivert & J.Denver
Music B.Danoff/T.Nivert & J.Denver

Almost heaven
West Virginia
Blue Ridge Mountain
Shenandoah River

Life is old there
Older than the trees
Younger than the mountains
Growin' like a breeze

Country roads take me home
To the place I belong
West Virginia mountain momma
Take me home country roads

All my memories
Gather 'round her
Miner's lady
Stranger to blue water

Dark and dusty
Painted on the sky
Misty taste of moon shine
Teardrops in my eyes

Country roads take me home
To the place I belong
West Virginia mountain momma
Take me home country roads

I hear her voice
In the mornin' hours
She calls me
The radio reminds me
of my home far away
And drivin' down the road
I get a feelin'
That I should have been home
Yesterday, yesterday

Country roads take me home
To the place I belong
West Virginia mountain momma
Take me home country roads
Country roads take me home
To the place I belong
West Virginia mountain momma
Take me home country roads
Take me home country roads
Take me home country roads



(歌詞：カントリーロード)

(裏表紙)



(団員名簿)



編 集 後 記

今回で22回目となる守谷市青少年海外派遣事業。アメリカ、グリーリー市を訪れた青少年の皆さんは今までにないような体験や感動で価値観が変わったことだと思います。中でもホームステイでの経験は皆さんがこの報告書に書かれたように、本当のアメリカ、英会話を肌で感じられたことでしょう。

今年度の派遣団員の皆さんは、事前研修当初、人の話を聞くように、相槌、相手に意思が伝わるようにと、何度か注意をされていたことを思い出します。

その後の事前研修では、フェアウェルパーティーで披露するダンス（AKBのヘビーローテーションやマイケル・ジャクソンのスリラー）を自分達で振り付けを考え繰り返し練習していたこと、英会話の練習を真剣に取り組んでいたこともあり、フェアウェルパーティーでのパフォーマンスはホストファミリーと一緒に楽しめ、素晴らしいものにできたと聞いています。

帰国後の事後研修では、皆さんの顔つきも変わり、少し大人になった気がします。MIFA（守谷市国際交流協会）が行った夏祭りの出店の手伝いにも積極的に参加し、今後の活動が楽しみです。団員の皆さんには参加した仲間との交流はもちろんのこと、遠く離れたアメリカの新しい家族・友達との交流を是非、続けてほしいと思います。そして、この事業で得た『心のふれあい』を忘れずに、次のステージに役立てていただき、活躍されることを願っています。

最後になりましたが、団長として研修から積極的にご尽力いただきました、天野さん、そして団員の選考から研修までご協力いただきました、守谷市国際交流協会の皆さんに心から感謝申し上げます。

守谷市役所 生活経済部 市民協働推進課

« GREELEY SHARES its culture with students from Japan



JOSHUA POLSON/jpolson@greeleytribune.com

EXCHANGE STUDENT YAIKA SUDA, 13, left, talks with Lauren Haring, 8, during the Japanese Exchange Program's barbecue Thursday afternoon at the Family FunPlex in Greeley. The barbecue allowed exchange students to socialize and get to know local students as well as their host families. Thursday's activities at the FunPlex were put on by Greeley Youth Commission.

EAST MEETS WEST

By Darian Warden
gtreporters@greeleytribune.com

Some things stay the same no matter what part of the world you're in.

Ask a group of teenage girls from Moriya, Japan, what their favorite part of their trip to America is and the answer is the same as would be expected of a teenage girl from America.

Shopping.

The city of Greeley is hosting 12 students and two chaperones from its sister city Moriya, in the Ibaki prefecture in Japan, through Monday.

Nicole Wright's family is hosting 13-year-old Maaya, and Wright says her 4-year-old daughter and two

little girls she watches have fallen in love with her.

"There's not as much of a language barrier between them. They just pull her wherever they want to go. They've taken claim on her," Wright said. "They got her to have a dance party this morning. To Katy Perry, of course."

Kodak started a cultural exchange program in 1993, and it was taken over by the city. The program was discontinued after 2008 due to budget problems, but has resumed this year. Each year alternates between Moriya sending students to Greeley



» More photos

See more photos with this story at www.greeleytribune.com.

and vice versa.

Andrew McRoberts, director of culture, parks and recreation for the city, said students pay their own way to get to Greeley and host families help out with activities.

"The primary intent of the program is the cultural exchange," McRoberts said.

Host families house the students and their chaperones as they participate in activities, such as horseback riding in Estes Park, a barbecue at the Family FunPlex and a Rockies game throughout the week.

Andy Segal, marketing coordinator for the Union Colony Civic Center, and a host for the students, said horseback riding in Estes Park was a little overwhelming for some.

"The space is much more limiting where they're from. My backyard seems enormous to them, so you can

imagine what the mountains were like," Segal said.

Chaperone Shinichi Amano said horseback riding has been the most fun activity he's participated in. It was the first time on a horse for him.

"It was amazingly fun," Amano said.

Amano said he expects visitors from Greeley to come to Japan next year for the 20th anniversary of the program.

Jill Droegemueller, events coordinator for the Union Colony Civic Center, and an organizer for the program, hosted two students in 2008. Four years later, those students are now 20, and she still receives email updates from them about their lives.

"You form lifetime friendships," Droegemueller said. "It's amazing how attached you can get."

グリーリーの新聞 (Greeley tribune) に掲載された記事

